

第40週の発生動向(2005/10/3~2005/10/9)

1. 警報・注意報は、出されていません。水痘の患者届出数が増加傾向にありますので、注意が必要です。

第40週五類感染症定点把握

保健所名 疾患番号・疾患名	青森		弘前		八戸		五所川原		上十三		むつ		青森県計		増減数 (前週からの増減)
	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	
(72) インフルエンザ															0
(60) 咽頭結膜熱	2	0.25											2	0.05	1
(61) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎			4	0.40	2	0.22					1	0.25	7	0.17	-5
(62) 感染性胃腸炎	13	1.63	7	0.70	5	0.56	2	0.40	5	0.83	9	2.25	41	0.98	0
(63) 水痘	8	1.00	15	1.50	9	1.00	7	1.40	9	1.50			48	1.14	32
(64) 手足口病	8	1.00	4	0.40	6	0.67			5	0.83			23	0.55	11
(65) 伝染性紅斑	3	0.38			2	0.22			7	1.17	1	0.25	13	0.31	1
(66) 突発性発しん	2	0.25	3	0.30	5	0.56	1	0.20	5	0.83	3	0.75	19	0.45	-1
(67) 百日咳															0
(68) 風しん					2	0.22							2	0.05	-1
(69) ヘルパンギーナ	2	0.25	4	0.40	1	0.11			1	0.17			8	0.19	-6
(70) 麻しん(成人を除く)															0
(71) 流行性耳下腺炎	6	0.75	1	0.10	10	1.11	4	0.80	8	1.33	1	0.25	30	0.71	4
(73) 急性出血性結膜炎															0
(74) 流行性角結膜炎	1	0.50	1	0.33	3	1.50							5	0.45	-6

保健所名	定点数				
	インフルエンザ (内科+小児科)	小児科	内科	眼科	基幹
青森	13	8	5	2	1
弘前	16	10	6	3	1
八戸	14	9	5	2	1
五所川原	7	5	2	1	1
上十三	9	6	3	2	1
むつ	6	4	2	1	1
合計	65	42	23	11	6

は警報 は注意報 「空欄」: 患者発生数0

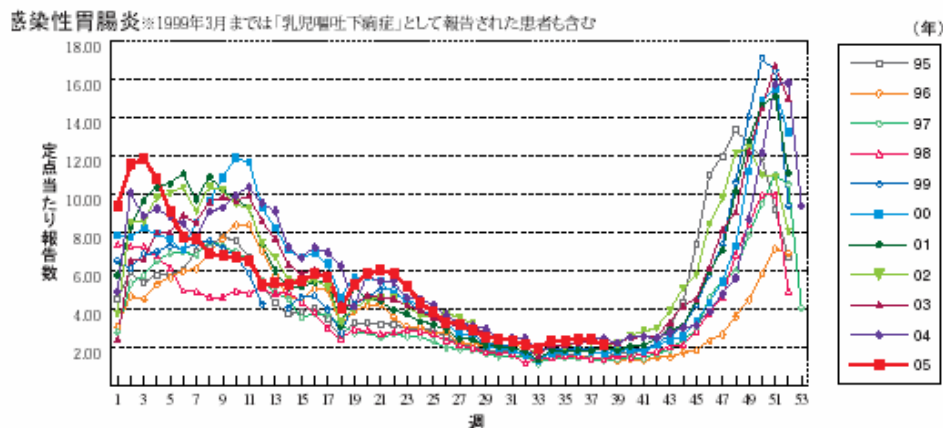
表 以外の感染症法対象疾患 (17年計には、今回届出された人数を含む)

(29) つつが虫病(四類全数把握疾患) 上十三保健所管内: 1人 (17年計 13人)
(82) マイコプラズマ肺炎(五類基幹定点把握疾患) 八戸保健所管内: 2人、上十三保健所管内: 1人(17年計 114人)

感染症の窓

感染性胃腸炎

図1 全国における定点当たりの報告数(95年~05年38週)



なお、9月下旬、八戸保健所管内で下痢、嘔吐、腹痛を主症状とする食中毒様事例があり、発症者便(5検体)、非発症者便(2検体)の病原検索の結果、7検体からノロウイルス(Genogroup 型)が検出されました。感染性胃腸炎は、例年40週過ぎから冬場にかけて増加傾向にあります(図1)ので、今後の動向に注意が必要です。

感染性胃腸炎の主な病原体としては、カンピロバクター、サルモネラ、病原性大腸菌、腸炎ピブリオ、ノロウイルス、ロタウイルス、腸管アデノウイルスなどがあります。夏季の発生原因菌としては、サルモネラ、腸炎ピブリオが多く、冬季はノロウイルスなどによる流行が多く見られます。特に、ノロウイルスは集団発生が多く、食中毒の原因ウイルスであると同時に感染性胃腸炎関連ウイルスでもあり、発症者の便、吐物から直接感染します。感染防止策として、便、吐物を取り扱う時には、マスク、手袋を着用し、必ず手洗いを行って下さい。